

ふれあい名古屋



【特集】福祉クローズアップ

暑い名古屋の夏

親も子も笑顔になれる児童館に行こう

CONTENTS

社協活動最前線 西区社会福祉協議会	4
想いをつなぐリレートーク / ながら体操	5
ほっとはあとコーナー	6
● 旬ボラに行く！ 人と人との信頼関係をたいせつに、福祉の心を地域に広げる	
● ボランティア・NPOウォッチング 特定非営利活動法人 チャイルドラインあいち / おでかけ応援ボランティア	
● きらっとボランティア・NPOらいぶ NPO 法人陽和	
● 地区のオススメのボランティア 千種区 子育てサークルりんごちゃん	
からだに優しいいきいきレシピ / プレゼントつきクイズ	10
インフォメーション	11
ご寄付・ご寄託・賛助会員のご紹介	12

今回の特集は、
名古屋市児童館の
取り組みや職員の姿を
取材しました。
関連記事：2・3ページ



な～や



暑い名古屋の夏 親も子も笑顔になれる児童館に行こう

児童館は、0歳から18歳までの子どもと子育て中の保護者が自由に利用できる施設です。名古屋市では各区に1館ずつ設置され、自由に遊んだりくつろいだり、いろいろな行事やイベントを楽しんだりすることができます。

また、近年では遊び場としての機能に加え、子育てに悩みを抱える保護者等からの相談窓口となるなど、児童館の役割は広がりつつあります。また、令和5年4月に発足したこども家庭庁の取り組みの中で、家庭でも学校でもない子どもの居場所の一つとして、児童館のあり方の検討が進んでいます。

今回は、児童館での取り組みや職員の姿を紹介します。来る夏休み、児童館を訪れてみてはいかがでしょうか。

■児童館の日常



乳幼児親子向けの行事



中高生の居場所づくり



季節のイベント



公園での移動児童館

■子育てに役立つ情報・体験を提供（熱田児童館）

「今日、サロンがあるからよかったら参加して！」

平日の午前中、熱田児童館に来館した乳幼児とその保護者に職員が呼びかけます。

月に1回開催している「あっちゃんサロン」。テーマは回によって様々ですが、この日は防災をテーマとした講座が開催されました。ホールに6組ほどの親子が集まり、ゆったりとした雰囲気が始まります。

この日の講師は、野原 淳子さん。託児ボランティアや災害ボランティアとして活動してきた経歴を活かし、8年ほど前から熱田児童館の様々な取り組みに関わっています。

「災害が発生して避難生活を余儀なくされた時に子どもが少しでも安心して過ごせるように、保護者の方に日頃の備えや心構えについて知ってほしい」と野原さん。

「寝室に倒れてきそうな家具はない?」、「災害が起こった時のために、1人あたりどのくらいの水や食糧を備えておけばいいと思う?」という野原さんの問いをきっかけに、参加者同士のコミュニケーションが生まれる場面もありました。あっちゃんサロンは、子育てに役立つ情報や知識が得られたり、年齢の近い子ども同士、保護者同士で交流したりすることのできる場となっています。



あっちゃんサロンの様子

■子どもたちの「やってみたい」を実現 (緑児童館)

緑児童館では、「子どもの声」を聞くことを大事にしています。

「大人が企画や場所を用意して提供するの簡単ですが、子どもが自分で考えたり決めたりする力を伸ばしてほしい」と塚本館長。

日頃から、ルールを作る時にも子どもたちと話し合っていて、館内には子どもたちの「やってみたい」があちこちに散りばめられています。

子ども主体の取り組みの一つが、令和5年3月に実施した「こどもじどうかん」。子どもたちから児童館でやってみたい企画を募って職員にプレゼンしてもらい、実際に3日間にわたってそれぞれの企画を運営してもらったそうです。その結果、「ガンプラの部屋」や自分の好きなものを集めた「コレクション展」など、大人も驚くアイデアに溢れたイベントとなりました。



子どもたちの自己実現に向けて、その力を引き出すためにはサポートが必要です。

日頃から心がけている職員の姿勢として、「どこまで手助けするか、どんな働きかけをするかは子どもの年齢や、やり取りの中で見極めていきます。時には『しないでほしいこと』を伝えなければいけない場面もありますが、その時も意図が伝わるように試行錯誤しています」と話します。

子どもとの何気ない会話から困りごとや悩みが見えてくることもあります。

「先生でも友達でもない、フラットだけれど信頼できる存在でありたい」ということでした。



緑児童館 塚本 岳 館長

■楽しい児童館を受け継ぎたい (白金児童館)

白金児童館のスタッフである前田さんは、小学生の時に児童館を利用していた元利用者です。

学校が終わると、卓球やボードゲームをするために毎日のように館を訪れていたそうです。



ユースサポートスタッフ
しょうた
前田 笙汰さん

「児童館に来ると、家族のように接してくれる職員や、年齢や学校を超えた友達と遊ぶことができて楽しかった」と当時を思い出します。

大学2年生になった今、前田さんは児童館から誘いを受けてスタッフとして週1回勤務しています。今でも当時からのニックネーム「まえしょう」で親しまれ、受付対応や児童館のInstagramの更新、中高生のための居場所「しらかね☆ナイト」の運営などに関わっています。

「幅広い年齢の子どもが利用する中で、関わりが難しいと感じることもあり、職員のすごさを改めて感じています」と前田さん。

前田さんが小学6年生の時に一緒に登校していた当時小学1年生の子が、中学生になって児童館を利用していたという思わぬ再会もあったとのこと。今はその中学生が、来館する下級生の面倒を見る姿が見られるそうです。

今後も、かつて自分がそうだったように、児童館に来るのが楽しみになるイベントや企画を提供していきたいということでした。



しらかね☆ナイト受付の様子

■名古屋市児童館について

開館時間：午前8時45分から午後5時まで

休館日：月曜日(市立学校の長期休業期間中は日曜日・祝日) / 年末年始(12月29日から1月3日)

各児童館の詳細は [名古屋市 児童館](#) で検索

今回は

社協活動最前線 Vol.53

西区社会福祉協議会

西区社会福祉協議会

つながる居場所「ふらっとぷらっと」を開設 ～重層的支援体制整備事業～

制度の狭間で複雑化・複雑化した困りごとに対応するための「重層的支援体制整備事業（以下、重層事業）」。その一つである「参加支援」の取り組みとして、重層事業実施区社協で地域資源を活用した交流拠点づくりが始まっています。今回は、西区社協（包括的相談支援チーム）が運営する拠点「ふらっとぷらっと」を訪ね、職員に話を聞きました。



左から
次長 伊藤 哲朗さん
主事 松井 夕希菜さん
包括的相談支援スタッフ
西本 梨穂子さん

ふらっとぷらっと寄り添う場

地下鉄「浄心駅」から歩いて10分ほど、西陵高校の向かいに開設された「ふらっとぷらっと」。この印象的な名称は、内覧会にて来場者に実施したアンケートをもとに決定。「自宅ではないところで、リラックスして安心して過ごせる寄り添う場でありたい」という思いとともに、フラット（隔たり無く）、ぷらっと（プラットフォーム：土台となる環境）という意味も込められています。

絨毯が敷かれたワンルームのスペースは、おしゃれなソファ、パソコンやゲームが置かれているなど、思い思いに時間を過ごせるよう工夫されています。

また、DMの発送作業や備品シールづくりなど、



その場でできるプログラムも用意され、就労を目指している利用者の支援にも取り組んでいます。

包括的相談支援チームが関わっていて「ふらっとぷらっと」を利用している人は40代・50代の男性が多く、「どこかでつながっているといいな」と思っている人も、本人は必要性を感じておらず、なかなか支援が進まないこともあるそうです。そのような場合にどのように関わっていくのかお聞きしたところ、「まずは、拠点に来てもらうきっかけを待っている」とのことでした。「この日に開いているから来てね」と言っても体調面などで来所できないことが多く、何度か職員が訪問をして「次は、良かったら「ふらっとぷらっと」で会わない？」と誘ってみたところ、来てくれるようになったこともあるそうです。

はじめの一步の居場所として

この取材中にも、地元学区の民生委員さんが「通りがかったら、開いていたから」と立ち寄って相談をされるなど、「ふらっとぷらっと」が地域に根差しているのを感じる出来事がありました。

始まって1年が経つ重層事業。伊藤次長は、「支援のゴールは、社協が個別支援を行うことではなく、この拠点を「はじめの一步」としてどこかと繋がっていくこと。ひきこもりの人や家に居づらい人、いろいろな事情を抱えた人が地域で生活していくことができる仕組みづくりに取り組んでいきたい」と、抱負を話されました。

「ふらっとぷらっと」、訪れたいところでした。

※重層的支援体制整備事業は名古屋市の委託事業です。8区の区社協が名古屋市社協とともに運営しています（令和5年4月時点）。

想いをつなぐ

リレートーク 53

デジタルアートセンタープラス名古屋

有限会社水風社
代表取締役 長谷川真之介さん

何故、福祉を志そうとしたか…改めて自問するとA氏を思い出す。

A氏は筑駒、東大、大学院と華麗なる学歴を引上げ当社の門を敲（たた）いてくれた。

第一印象は寡黙で虚ろだが自信家だったのを今でも鮮明に覚えている。

入社後、実務を捌（さば）き小さなミスあるものの社員50名の零細企業で監督官庁への対応のみならず総務システム全般の礎（いしずえ）を半年足らずで築いた。

客先の私に突然の電話があり「A氏が大声で何かを叫んでいる。」

何が起きているのか、私は指示に戸惑い何もできず時間が経つとA氏は落ち着き帰宅した。後日A氏に事情を伺うと精神障害者手帳1級と統合失調症など数多の病歴を隠し入社したとの事、たまに体調が悪い日は病状が現れるとの事であったがその日以降は居眠り、書類紛失や予定を忘却する等を重ね、他の総務職員も対応に疲弊し、A氏は退職を余儀なくされる。

障がい者への理解のみならず雇用の準備も整っていなかった当社は今、就労支援B型事業所を立ち上げピアスタッフも雇用している。障がい者や健常者の垣根なく働く環境を整えA氏にも再入社の依頼をしている。様々な障がいによって輝けなくなっている才能や技術を輝かせる環境を整える事によって、真の意味での多様性が集合知を生む事と私は信じている。

※似顔絵は当事業所の利用者が描いたものです。

今回は 特別養護老人ホーム南生苑さんへ
バトンタッチ



椅子に座って

ながら体操

仕事や家事の合間に、「椅子に座りながら」できる体操です。

第20回 猫背を改善

椅子に座りっぱなしで丸くなった背中をほぐします。

1 椅子に座り、足を肩幅程度に開きます。手を頭の後ろで組み、背筋を伸ばします。両腕はできるだけ開き、肩甲骨が寄っていることを意識します。



2 上半身を左側に倒します。胸を張ったまま、ゆっくりと呼吸をして15秒。



3 次に右側に倒します。お尻が浮かないように。そのまま15秒。



4 3の姿勢のまま、肘を見るように視線を上に向けます。左右15秒ずつ行います。



旬ボラを行く!



本号のテーマ

人と人の信頼関係をたいせつに、福祉の心を地域に広げる

〈インタビュー：旅する食いしん坊YM〉

社会福祉法人あさみどりの会の平野飛鳥さんに、ボランティア団体『新池子どもクラブ』について紹介していただきました。

●今回取材させていただいている『新池子どもクラブ』ができるまでの経緯、既存の地域子ども会の立ち位置との違いについて教えていただけますか？

『新池子どもクラブ』の運営母体である「あさみどりの会」は、心身障がい児（者）問題に光を当てた活動をしてきました。公益を目的とする事業の中の地域啓発事業、野外活動事業のひとつとして、昭和51年より地域の小学生を対象にした『新池子どもクラブ』の活動を実施してきました。地区の子ども会組織と直接の関係はありませんが、学校や家庭とは別の楽しい場所として、毎回大勢の子どもたちが私たちの活動に参加してくれています。

●地域の若い方をボランティアとして積極的に受け入れる理由は？また、ボランティア募集時にはどんなことを重視なさっていますか？

ボランティアとして人と関わる中で、『すべての人々が共に良い人生を送れる社会づくりを行う』という法人の理念を若い皆さんと共有していきたいと考えています。ボランティア募集は、大学のボランティアサークルのメンバーに直接声をかけるなどして、継続的に活動していただけたような熱意ある方を受け入れています。

●子どもクラブの活動内容をご紹介いただけますか？

年間5回程度、日曜日の午前中に工作、遠足、調理実習、デイキャンプなどをするほか、夏には岐阜県郡上市にある法人の研修所で3泊4日のサマーキャンプを実施しています。子どもたちはボランティアの皆さんといっしょに自然の中で川遊びやキャンプファイアー、飯ごう炊飯などをして楽しく過ごしています。

●平野さんはボランティアスクール（法人主催の事業）の運営担当者でもあるとのことですが、このスクールの開講目的や具体的な講座内容を教えてください。

学生及び社会人の生涯学習の場として、生きがいを求め、人の役に立ちたいという方々のニーズに応え、社会活動に参加するための学習機会と実践活動の提供の場として、ボランティアスクールを開催しています。これまでに78回開催し、昨年度は、『ピース～心を豊かにする、ボランティアという宝探し～』というテーマの下、災害ボランティア経験者や関連分野の研究者の講義を聞いたり、NPOとして活動を進める方とボランティア体験をしたりするなど計5回の講座を開きました。今年度もこのスクール開講を計画しています。

●最後に読者の皆さんにメッセージをどうぞ。

20代を中心に若い仲間が活動中です。いっしょに運営段階から関わっていただける方、お問い合わせください。



サマーキャンプの様子



製作活動の様子

【お問い合わせ】

HP : <https://www.asamidori.net/>
TEL : 052-782-2777
Email : sawarabi@asamidori.net

ボランティア・ NPOウォッチング

団体の活動内容等を紹介するコーナーです。

ほっとはあとコーナー

地域住民、ボランティアや企業、学校関係者などへのボランティア情報発信を目的に、ほっとはあとクラブ（ボランティアの方々）と本会ボランティアセンターが協働編集（取材・執筆）しています。

特定非営利活動法人 チャイルドラインあいち

【団体概要】

電話やチャットで18歳までの子どもの声を聴く活動を23年間続けている団体です。子どもの権利条約の理念を基に、子どもの話すありのままを受けとめ、お説教やアドバイスをすることなく、子ども自身が問題解決に向かえるように対応します。

また、聴いた子どもの声をそのままにすることなく、データ化して報告書や講演会などを通して社会に子どもの状況を発信することにも力を入れています。

【活動者の思い】

小中高校生の自殺者数が過去最高となり、日本の子どもが育つ環境は深刻な状況にあります。

周りの人に気を使い、自分の気持ちや意見を話すことができない子どもたちがたくさんいます。

少しでも子どもたちが否定されず、ありのまま自分の気持ちや意見を話せる時間を提供し、

子ども自身が自分の力を信頼して問題に向き合い、解決に向かっていけるようお手伝いがしたいと思い活動しています。



電話で相談を受けるボランティアの様子



【お問い合わせ】

HP : <https://cl-aichi.net>
Email : info@cl-aichi.net

おでかけ応援ボランティア

【団体概要・活動内容】

1人での外出に不安がある方にボランティアが付添い、安心しておでかけできるように応援する事業です。重いものが持てない方と一緒にお米を買いに行ったり、一緒に病院に行ったり、ときには喫茶店や動物園へおでかけすることもあります。足腰が弱くサロンに参加できなくなった方へは、車でお迎えにあがります。利用された方からは、「好きなサロンに通い続けられて本当にうれしい」とのお声をいただきました。

【お問い合わせ】

名古屋市瑞穂区社会福祉協議会
TEL : 052-841-4063
FAX : 052-841-4080
Email : mail@mizuho-shakyo.jp

【活動者の思い】

コロナの影響で外出が制限されたことで、おでかけすることの大切さを実感しました。

今は通院同行が多いですが、これからはご本人の「でかけたい」という希望を叶えるボランティアをしていきたいです。また、おでかけ応援ボランティアをする仲間や活動の機会を増やしていきたいと思います。



活動の様子

きらっと ボランティア・NPOらいぶ

非行や引きこもり、発達障がい等の困難を抱える少年少女たちを支援する『NPO 法人陽和』代表の渋谷幸靖さんにお話を伺いました。今回は、非行に走ってしまった子どもたちへの支援を中心に取材をさせていただきました。



●『NPO 法人陽和』を立ち上げたきっかけは？

実は私も、罪を犯して逮捕されたことがあるんです。悪いことをして自分の名前が世に出ることで周りに認められる気がした、歪んだ価値観を持っていました。刑期を終えて出所する時、「自分みたいな子どもや、非行で苦しむ親を減らしたい」、そう思い非行少年の支援団体でボランティアを始めました。その団体に入って衝撃的だったのが、非行少年のお母さんたちの後悔する姿でした。お母さんたちと話しているとほとんどの人が責任を感じて涙を流していました。その時、自分も非行に走って母を悲しませていたことに気づき、悲しむお母さんたちを減らすため本格的に NPO 設立に向けて動き出しました。

●子どもたちは周りの環境に大きく左右されるんです

子どもたちが非行に走ってしまう最も大きな原因は周りの環境です。親からの厳しすぎる躰を受けている子、例えば、お小遣いがもらえず好きなものを買えない子どもは、万引きをしまうこともあります。他にも、親が全く家におらず1人ぼっちで過ごしている子や逆に親の過干渉が嫌になってしまった子等は、家出をして同じような境遇の子と集まり集団で非行に走ってしまうこともあります。

でも、そんな子たちもみんな根は純粋な良い子たちばかりで、子ども食堂へ一緒に行くと参加する子どもたちを一生懸命お世話してくれたりします。そんな純粋で良い子たちが周りの環境の影響で社会の枠から外れてしまう、私はこのような状況は絶対に見過ごしてはならないと思ひ、日々活動しています。

●大切なのは子どもたちに未来を描かせることです

繰り返しですが、非行の最も大きな原因は環境です。周りの環境が悪く、非行に走らざるを得なかった、非行しか選択肢がない子たちがとても多いです。そのため、彼らの支援では非行

以外の選択肢が見えるように「未来を描かせること」を大切にしています。非行をやめようと思っても、非行以外の選択肢がない環境が変わらなければ難しいですし、その環境から脱却することもまた難しいのです。就職支援等で犯罪をしなくても収入を得る手段を伝えたり、趣味等熱中できることを見つけて友だちを作ったりして、非行をする仲間以外の居場所の選択ができるようにし、未来を描いてもらえるように心掛けています。

●お父さんお母さん、支援者のみなさんへ

大人のみなさん、私はもっと子どもたちを受け入れてくれる、寄り添える大人が増えて欲しいと考えています。できていると思っている方も、(非行に走ってしまった子に限らず) 子どもと接する時は、彼らと同じ目線で話すことを一度意識してみてください。1つ印象に残っていることを紹介しますが、少年院から出てきた子どもの支援を頼まれた時にその子の親から第一声で「学力を上げてください」と言われたことがあります。親が高学歴の家庭に多いのですが、人生で最も重要なことは勉強で、子どもはゲームも一切やらせてもらえず学校で友だちとの会話についていけなくなるような、正直虐待のような状態で、日常のストレスから非行に走りたくなるのも仕方ないと思いました。大人が学ぶ・気付く機会は中々ないので難しいかもしれませんが、厳しく躰けて押さえつけるのではなく、非行に走らないよう寄り添って選択肢を与えられる大人が少しでも増えていってくれればと思います。陽和では、子どもだけでなく大人からの相談も受け付けていますし、勉強会も開いています。大人のみなさんも子育てに困った時はいつでもご連絡ください。



【お問い合わせ】

HP : <https://npohiyori.net>

TEL : 052-893-9899

Email : npo.hiyori8@gmail.com

各区社協の
職員に聞いた

地区のオススメのボランティア

第10回

千種区 子育てサークルりんごちゃん



リーダーさん（子育てサポーター）

リーダーさん（子育てサポーター）や参加しているお母さんにお話を聞かせていただきました。

●『子育てサークルりんごちゃん』とは

私たちは、子育てを頑張っているお母さんたちがひとりぼっちにならないように、地域みんなで子育てを支援するサークルです。子育てサポーター^(※1)が企画を考えて、参加してくれる子育て中のママやおばあちゃん、お子さんたちに楽しんでもらっています。りんごちゃんは、国連から認証されたNGO団体（非政府組織）である“新日本婦人の会^(※2)”が大元となっていて、同じような子育てサークルは市内だけでもたくさんあるんですよ！りんごちゃんでは、0～2歳児の（就園前）の子どもを対象に、わらべうた・絵本の読み聞かせ・工作を中心に行っています。参加してくれるお母さんたちは、保育園や幼稚園、小児科医、遊び場などの情報交換をしたりしていて、お母さん同士のネットワークが築ける大事な場になっていますし、お子さんたちも就園前なので同年代の子と出会い一緒に遊べる貴重な場となっています。

●参加しているお母さんの声

私は東京から名古屋に引っ越して来て、1人で子育てをしていたところ、偶然公園でリーダーに勧誘してもらえたんです。かれこれ1年以上参加させてもらっています。やっぱり、引っ越しによってまったく知人がいない場所での子育ては不安でしたが、こ

※1：子育てに関する悩みや不安を抱える親たちをサポートする、地域における子育て支援の担い手。文部科学省の「子育て支援ネットワークの充実」事業の具体的な施策の一つとして設けられたもので、対象者は子育て経験者など。養成は、市町村の教育委員会社会教育課が担当。（引用：公益財団法人 日本女性学習財団）

※2：1962年に平塚らいてうやいわさきちひろなどによって創立され、子育て・教育・くらし・環境・平和など、女性の願いを実現するための活動に取り組んでいる団体。

こに来てみんなで協力しながら子育てができ、とても良かったです。特に去年の夏に行った泥遊びの時はとても助けられました。泥だらけで遊んでいる子どものお世話を1人ですとなると大変ですが、サポーターや他のお母さんたちと一緒にやれば目も行き届くし負担感も少なくやれました。また、最近はお母さんのお世話ばかりで、上の子と遊んであげる時間が取りにくいこともあるのですが、りんごちゃんに来れば上の子も遊び相手がたくさんいるし、二児の母として本当にありがたく思っています。

●リーダーさんより読者のみなさんへ

みなさん、りんごちゃんでは活動を支えてくれる子育てサポーターを募集中です。子育てを頑張っているお母さんやそのお子さんたちのために、一緒に活動してくれる方はぜひ仲間になってください！

また、1人で子育てに奮闘しているお母さん、りんごちゃんではみんなで助け合いながら子育てをしています。こういう所へ来るのは、最初は不安に思うかもしれませんが、ぜひ一歩踏み出して来てください！一緒に子育てを頑張りましょう♪



みんなでお出かけ

【お問い合わせ】

TEL：052-753-3772 / 090-1983-2700
FAX：052-753-3772



ほっとはあとクラブメンバーのつぶやき

改めて「福祉」（ふくし）を辞書で引いてみると、「幸福。さいわい。現代では、特に、公的配慮による社会の成員の物的・経済的な充足をいう。」とあります。社会の成員とは日本国民すべてのことですが、それでは、公的機関が所得の高くない家計への経済的な応援を充実させていけば多くの人々が幸福になれるのでしょうか？

日本を含めて世界の経済学者が毎年2%程度の物価上昇をしていく国が安定した健全な社会であり、人々の賃金を上げていくことで実現できると呼び掛ける人もいます。

確かに私達の実生活でも、例えば、飲食店は1200円でランチを提供したい。でも客の予算が1000円だった場合、お店が値引きして200円分の利益を削るか、提供する食事の量や質を減らすか、客が無理して予算以上のお金を支払わないと話が成立しません。客の賃金が増えることで1200円のランチの予算が取れるようになれば、飲食店にとっても良いことなのかもしれませんね。自分が豊かになるためには隣人も豊かになってもらう必要があるのだと最近感じるようになりました。

（パンネーム シャオムー）

からだに優しい
いきいきレシピ

夏バテ対策にひんやり、カラフルな一皿

タコとトマトの冷製パスタ

暑い日にぴったりの冷たいパスタ料理です。具材には抗酸化作用のあるトマト、夏が旬で免疫力を上げるβカロテンを含有するオクラ、疲労回復に効果のあるタウリンを含むタコを使います。パスタはカップリーニやフェデーニなど細い麺を選ぶと、ゆで時間が短くてすみます。ワインビネガーは酢で代用しても。

材料(2人分)

- 細めのロングパスタ 160グラム
- トマト 1個
- オクラ 4本
- ゆでダコ(足) 1本

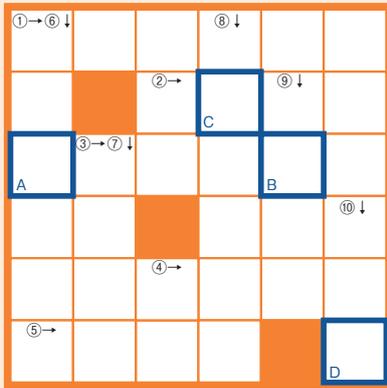
- A
- ニンニク 1片(すり下ろす)
 - オリーブオイル 大さじ3
 - 白ワインビネガー 大さじ1
 - 塩 適量
 - コショウ 適量



- 1 トマトを湯むきする。へたのないほうの皮に十字に浅く包丁を入れ、沸騰した鍋の湯に10秒ほどつけて冷水に取る。皮をむいて2センチ角に切る。
- 2 オクラもさっとゆでて冷水に取り、ガクを取って斜めに切る。タコはそぎ切りにする。
- 3 ボールにAを混ぜ合わせ、トマト、オクラ、タコを加えて軽く混ぜる。冷蔵庫で冷やしておく。
- 4 湯を沸騰させた鍋に塩を入れ、パスタをゆでる。ザルに上げて氷水でしめ、よく水気を切る。3のボールに入れて混ぜ、皿に盛る。

プレゼントつきクイズ

クロスワードを解いて、色枠に入った文字をA～Eの順に並べると、何という言葉になるでしょう。



ヨコのカギ (小文字も大文字とします) ⇨

- 1 長い触覚と強いあごを持ち、人の髪の毛も切れる虫
- 2 p3で紹介。緑児童館で行ったのは「○○○○の部屋」
- 3 直角三角形の2辺の長さから、残り1辺の長さを計算「○○○○の定理」
- 4 両手の指で、輪にしたひもを使って遊ぶ
- 5 窓などに吊して日光などをさえぎる布

【応募要項】

郵便はがきに①問題の答え、②住所、③氏名、④「ふれあい名古屋」本号で興味があった記事と理由、本紙に対するご意見を書いて下記までお送りください。
締切は2023年7月31日必着。
〒462-8558 名古屋市北区清水四丁目17-1
名古屋市社会福祉協議会 「ふれあい名古屋」係

【正解発表】

2023年10月号誌上に発表。正解者の中から抽選で10名様に名古屋市総合社会福祉会館にて展示・販売中の授産施設製品の中から500円相当の品を差し上げます。当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。
個人情報について
応募いただいた個人情報は賞品の発送および本紙の企画以外に利用したり、第三者には提供しません。

タテのカギ ⇩

- 6 モロッコ最大の都市。白くて大きな花の名前
- 7 野菜や果物の皮むき器
- 8 p9で紹介。「子育てサークル○○○○○」
- 9 p4で紹介。つながる居場所「ふらっと○○○○」
- 10 掛け時計などの文字盤の下で左右に揺れ続ける

前回の答え

うぐいす



社協からのお知らせ

名古屋市鯉城学園 公開講座（無料）を開催します

名古屋市鯉城学園では、7月に市民向け公開講座を開催します。

名古屋市科学館 学芸員 小塩 哲朗（おじお てつろう）先生をお招きして、「南極観測隊のおしごと～地球を調べる～」をテーマに、南極観測隊は南極で何をしているのか、どんな生活を送っているのかを、講師自身の経験を元に豊富な写真や動画で解説していただきます。

日時：令和5年7月21日（金）午前10時～午前11時30分 場所：伏見ライフプラザ 5階 鯉城ホール
定員：750名（予約不要、当日直接お越しください。）



お問い合わせ 名古屋市鯉城学園 TEL：052-222-7521 FAX：052-222-7523

名古屋市障害者差別相談センター
みんなで学ぼう！障害者差別解消講座（無料講師派遣）のご案内

名古屋市では、障害のある人もない人もともに尊重しあいながら、誰もが安心して暮らせるまちづくりをめざしています。本センターでは、市民や企業の皆様に「障害者差別解消法」に関する知識や理解を深めていただくことを目的に出前講座（無料講師派遣）を行っています。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を掲げたSDGsの観点からも、ぜひご活用ください。

講座内容：障害の考え方、障害者差別解消法の説明、相談事例から学ぶ合理的配慮、ユニバーサルデザイン、グループワーク 等
※オンライン開催 OK

対象：市内の市民団体・グループ、企業 等



お問い合わせ
・申込先
名古屋市障害者差別相談センター
TEL：052-856-8181 FAX：052-919-7585
Email：inclu@nagoya-sabetsusoudan.jp
URL：https://nagoya-sabetsusoudan.jp



生活援助員を募集します！（養成研修のご案内）

名古屋市障害者・高齢者権利擁護センターでは、判断力の低下により日常的な金銭管理などを自分で行うことが困難な知的障がい者や精神障がい者、認知症高齢者との契約により、生活費のお届けや福祉サービス利用料の支払などのサービスを行っています。

センターでは、サービスの担い手である「生活援助員」の養成研修を実施します。

募集期間：令和5年7月31日（月）まで 申込方法：所定の申込書を南部事務所へ提出

※申込書は、名古屋市社協 HP からダウンロードしていただくか、各区社会福祉協議会などに配架してあります。

お問い合わせ
名古屋市障害者・高齢者権利擁護センター南部事務所
TEL：052-678-3030 FAX：052-678-3051

「ボランティア保険」にご加入ください

「ボランティア活動保険」は、ボランティア活動中における傷害事故と賠償事故をセットで補償します。活動場所にかかわらず往復途上も対象になります。補償期間は、毎年4月1日から翌3月31日まで（年度途中の加入もできます）。補償期間中に複数のボランティア活動をしている場合、一度の保険加入で他のボランティア活動も補償の対象となります。行事毎に加入するタイプの「行事用保険」もあります。安心してボランティア活動をするためにも、ぜひご加入ください。

申込方法：申込書に必要事項を記入・押印のうえ、掛け金を添えて、各区社会福祉協議会または名古屋市社会福祉協議会窓口まで。

お問い合わせ
名古屋市社会福祉協議会ボランティアセンター
TEL：052-911-3180 FAX：052-917-0702

ご寄付・ご寄託・賛助会員のご紹介

ご寄付ありがとうございました

令和5年3月1日～令和5年5月31日受付分（敬称略、順不同）

福祉基金への寄付

岐阜信用金庫 / 有限会社三洋サービス / 中部交通共済協同組合 / MT TECHNICAL JAPAN 株式会社・名古屋銀行 / 鳳凰 敦 / 住友 誠 / MAC&BP ミッドランド税理士法人 / 名古屋本丸ライオンズクラブ / 名古屋市健康福祉局職員ワンコイン運動 / 名古屋市子ども青少年局職員ワンコイン運動 / 福祉基金啓発事業終活講座募金箱 / 子ども食堂フォーラム募金箱 / 福祉基金啓発街頭募金 / 匿名10件

なごや・よりどころサポート基金への寄付

名古屋中ロータリークラブ / 匿名3件

市社会福祉協議会への寄付

鯉城学園26期園芸学科 OB 会 / 匿名1件

市社協サポーター（賛助会員）のご紹介

令和4年度・令和5年度会員（令和5年5月31日現在）（敬称略、順不同）

仁木 雅子 / 中央法規出版株式会社岐阜営業所 / 小池 博美 / 渡辺 賢次 / 株式会社マルワ / 鷲見 修 / 木村 剛 / 株式会社せがわ住機 / タック株式会社 / 富田 哲生 / 三谷 洋一 / 北村 泰幸 / 株式会社サンエネック / 上村 成良 / 永井 瑛資 / K のキンパ / 越俣 加絵 / 水谷 巍 / 東洋羽毛東海販売株式会社 / 株式会社ウイングス / 石田 栄美子 / 立松 博 / 株式会社ラングローバル / 船木 陽子 / 柏 大輔 / 佐藤 良喜 / 鳳凰 敦 / カシワギ電気株式会社 / 匿名5件

ご寄託ありがとうございました

使用済切手・書き損じはがき・使用済テレホンカードなど（令和5年3月1日～令和5年5月31日受付分） ※敬称略、順不同

社会福祉法人八起社 老人ホーム誠和荘 / 名古屋市北部地区郵便局長夫人会 葵会 / 亀島学区地域推進協議会 / 前山学区民生委員児童委員協議会 / どんとクイズ教育研究所 / 蔦井株式会社 / 加藤都 / 斎藤かね子 / 高橋孝次 / マミーベア保育園 / ハリキッテ友の会 世話人 毛利碩 / 川井孝司 / 北区消費者クラブ / 中川区手をつなぐ育成会 / 岩原佑子 / 鯉城学園学園生一同（学生協議会 社会参加委会） / いのちと性を伝える出前講座はぐ / 社会福祉法人みなと福祉会 うろじの家 / 港区障害者（児）とともに育つ会 / 服部とみ / 三井堂株式会社 / 田村富士雄 / 丹羽正子 / 西尾吉弘 / みなみ新体操クラブ / 宮本一成 / 瑞穂鯉城会 / 鈴木由紀子 / 東・北・中村・昭和・瑞穂・熱田・中川・南・守山・緑区社会福祉協議会受付分 / 匿名15件

ご寄託いただいた使用済切手等は、次の団体に送付しました。

団体名	活用方法
公益社団法人日本キリスト教海外医療協会	保健医療協力 奨学金援助
タンザニアポレボクラブ	アフリカ緑化支援

※使用済切手の仕分け整理は、「ポストの会」と「-なごや北-男ディ倶楽部」の皆様にご協力いただきました。

※使用済み切手・書き損じはがき・ベルマークなどの寄付希望がありましたら、名古屋市社会福祉協議会ボランティアセンターまでお届けください。お届けの際は、本広報紙へのお名前掲載の可否及び郵送希望の有無をお知らせください。

じむきょくちょうのつがやき

● 昨年9月放送のNHK「ドキュメント72時間」で、様々な生きづらさを抱えた子どもたちが泥まみれで遊んだり、自由に過ごす姿が共感を呼び、年末恒例の同番組の視聴者投票で年間ベスト1に輝いた、「子ども夢パーク（ゆめパ）」。川崎市が全国に先駆け施行した「子どもの権利に関する条例」を具現化する施設として20年前に開設されました。3月に開催した「子ども食堂フォーラム」では、運営法人の理事長に講演をしていただきました。こども家庭庁が設置され、「こどもまんなか社会」に向けた動きが進む中、「ゆめパ」の先見性に改めて注目が集まっています。子ども食堂、プレーパークなど形は様々ですが、子どもたちがありのままの自分でいられる地域の居場所が今こそ求められています。



名古屋市社会福祉協議会事務局長 柄澤 克彦



ひとに、ひたむきに。
社会福祉法人
名古屋市社会福祉協議会

〒462-8558 名古屋市北区清水四丁目17番1号 名古屋市総合社会福祉会館内

TEL : 052-911-3192 FAX : 052-913-8553

ホームページ : <https://www.nagoya-shakyo.jp/>

E-mail : nagoyaVC@nagoya-shakyo.or.jp

※この広報紙は福祉基金を活用して作成しています。

※この広報紙は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

※市内社会福祉施設、民生委員・児童委員、大学などへの配布及び公共施設に配架しています。

広報紙「ふれあい名古屋 No.141」 発行日：令和5年7月1日

発行部数：12,000部

